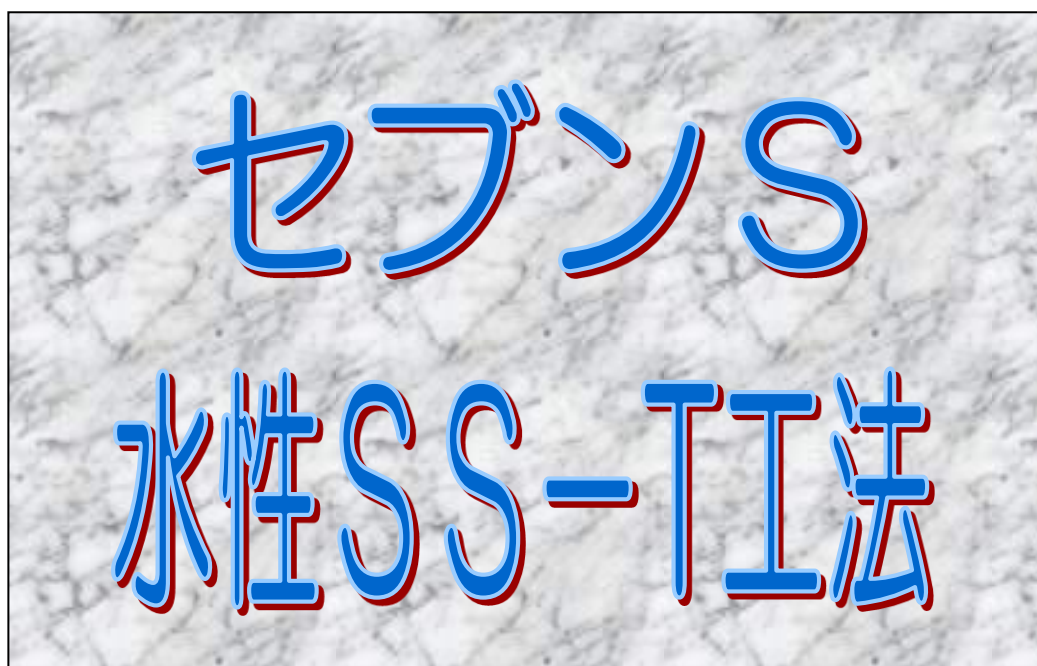


ダム面及び目地の保護と止水



施工要領書

下地処理

□ 下地ごしらえ

- ① タイルの剥離部、浮き箇所、ひび割れ箇所は、事前に張り替え又は、エポキシ注入・シーリング材充填などの補修をする。
- ② 深目地の場合、目地底入り隅、タイル木口へ刷毛で丁寧に各工程塗り付け十分に造膜をさせる。または、浅目地に埋め戻し、十分に目地モルタルを乾燥後施工して下さい。
- ③ シーリング材打ち替え後、シーリング材の上へは養生するか、見切り、塗装は避けてください。
やむを得ず塗装する場合、現在まで不具合の少ない2成分型アクリルウレタンを薦めております。
PCa部材、ALCパネル、押し出し成形版では、2成分型アクリルウレタンシーリング材上に塗った後に不具合報告が有りましたので、塗装は避け、「セブンS」塗装後に変成シリコーンNBタイプでの打ち替えを薦めております。

(ガラスブロック面などへのご注意)

シリコーンシーリング材を打ち込まれている場合は、その上に塗装は出来ません。
ガラスブロック面や、目地モルタルへのシリコーンシーリングによる汚染を十分にクリーニングし、付着阻害の無いようにしてから塗装して下さい。
「セブンS」を塗装する場合には、ポリイソブチレン系シーリング材に打ち替え、ご利用下さい。

- ④ ポリサルファイドシーリング材、変性シリコーンシーリング材の場合、シーリング材の上へは養生し、「セブンS」を塗らないようにする。やむ得ずシーリング材の上に施工する場合は、次善に策として滲み止めプライマー、セブンファンデクリヤー I を施工前日までにシーリング材上へ、刷毛や、筆で塗り付けておく。
- ⑤ 入り隅部へは、2成分型アクリルウレタンを三角に打ち、面取りしてから施工すると防水効果が上がります。
- ⑥ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材が、タイル表面に付着した箇所に経時後見苦しい黄変むらとなるので、表面に残らぬよう処理しておく。
- ⑦ ワックスや油脂などがタイル面に付着している場合は、洗剤を使用し、十分水洗いを行うか、研磨紙すり及び、シンナー拭き等により、除去する。
- ⑧ 目地部、ひび割れ部などからの白華物(エフロレッセンス)は、硬質ブラシやスクレーパー、ヘラなどで、できるだけ除去し、弱酸性液(希塩酸、しゅう酸等)で洗浄除去後、十分水洗乾燥する。
尚、酸で目地モルタル、タイル裏面モルタル、及びその他のセメントモルタル、コンクリート面の劣化、強度低下を生じさせないよう、水洗い除去を充分行うなどして注意して施工する。
- ⑨ かびや藻などの微生物汚染を生じている場合は、カビ取り材、アルコール液で殺菌処理する。
- ⑩ 塵埃や付着物などの汚染物は、セブンドオ等を用い、汚れを除去した後、十分に高圧水洗浄する。
- ⑪ 水洗後のタイル面を十分乾燥する。

セブンS (水性SS-T工法) の施工

- セブンS (水性SS-T工法) の塗り工程
 [中塗りの塗付方法] 1回目: 標準目砂骨ローラー

工 程	使 用 材 料	希 積 (重量%)	塗付け量 (Kg/m ²)	工程時間 (時間)	施 工 方 法
1 下塗り(1~2回)	水性セブンSシーラー I	水 (0~10)	0.1 ~0.15	3以上 24以内	中毛ウールローラー
2 中塗り(1)	セブンSS	水 (1~5)	0.4 ~0.7	3以上 168以内	標準目砂骨ローラー
3 中塗り(2)			0.2 ~0.3	16以上 168以内	標準目砂骨ローラー又は 中毛ウールローラー
4 上塗り	水性セブンストップ	水 (0~10)	0.12 ~0.15	2以上 8以内	中毛ウールローラー
5 上塗り (艶有/半艶)				24以上 (最終養生)	

◎下地がALCパネル、押し出し成形版、及び斜壁部への中塗りは、1kg/m²を基準にして下さい。

◎斜壁部への中塗りは、1kg/m²を基準にして頂くか、セブンウォール(外壁防水材アクリルゴム系)での着色防水工法をお薦めします。

- ☆ 陶器質や無釉薬タイル、擬石調やレンガ等、吸水性の高い素地の場合、シーラーは乾燥後2回目を追いかけて塗りし濡れ色を均一にしてください。
 - ☆ 水性セブンSシーラー I 塗布後、目地モルタルの吸い込みの大きい部分は、乾燥後、再度増し塗りし、目地モルタルを均一に濡れ色にしてください。
 - ☆ セブンSS(中塗り)2回で最低0.6kg/m²塗り切れない場合、塗りきるまで重ね塗りして下さい。
 - ☆ タイルが接地面から張られている場合、接地面から10cm程、塗装は避けて下さい。
 - ☆ 花壇や擁壁など裏面からの湿気供給が予想される部分への塗装は避けて下さい。
 - ☆ セブンS塗装では、塗装しない取り合い側からの浸水による不具合無きようにして下さい。(養生テープにカッターなどを当て剥がして下さい。)
 - ☆ 笠木部天端などタイル露出部へはウレタン防水又は、セブンウォールなどで防水処置して下さい。施工後、塗膜が乾燥してから養生テープを剥がす場合、カッターなどを当て、養生テープで塗膜を剥がさないように気をつける。
- 1) 下地の状態により、塗付け量に差異を生じることがあります。
 - 2) セブンSS中塗りは、ローラーの運びをゆっくり配り塗りすると、気泡を含みづらくなります。一度に腕を伸ばししごき塗りすると、造膜不均一や造膜不足、気泡が入り易く、塗膜の白ぼけを発生する場合があります。
 - 3) 予めセブンSS(中塗り)の仕上方向を打ち合わせて下さい。
 水性セブンストップFu-Iは1液型です。
 塗装直後は乾燥しても当日大量の雨が当たると戻る場合があります。
 - 4) 水性セブンストップは、二液型です。硬化剤の入れ忘れに注意して下さい。
 又、塗装直後は乾燥しても当日に大量の降雨が当たると戻る場合があります。
 - 5) タイル面が指触で暑い場合、中塗りのセブンSS及びセブンSは塗付時の乾きが早くなり、不具合を発生し易くなりますの注意して下さい。
 - ・セブンSS又はセブンSに水道水3%(400~700cc)程を加え、混練棒にて気泡が入らぬように攪拌し、塗膜の表面乾燥を遅らせる。
 - ・セブンSS又はセブンSを狭い面積ずつ塗り継ぎ、中塗りの糸引き、ローラー運びが重くなったら、塗りを止め、乾燥硬化後に塗り増しして下さい。
 - ・セブンSS又はセブンSの表面が皮張り、糸引きが始まってから、ローラーを運ぶと、塗膜表面を荒らし、気泡混入させ、仕上面を悪くし、白ボケの要因となります。

セブンス（SS-T工法）主材塗り1回目細目砂骨ローラー仕上げの施工要領

●はじめに

セブンスシリーズは、透明仕上げの為、別材料を塗装したものや汚れたローラー、ハンドル等の道具は使用しないこと。

1) 下塗り

- ① 下地調整が十分行われていることを確認後、下塗り工程を行う。
- ② 水性セブンスシーラー I は、重量比とし水道水で0～10%希釈でハンドミキサー等で均一に混合し使用する。
- ③ 中毛ウールローラー又は、スプレーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に所定量塗り付ける。(下地、タイルの状態により塗布量が異なる場合があります。)
- ④ 乾燥後、濡れ色にならない部分は増し塗りし、濡れ色を均一にする。

2) 中塗り〔1回目細目砂骨ローラー塗り〕

- ① 下塗りの乾燥後(3時間以上)、中塗りする。 ※指触で確認する。
- ② セブンスSSを1～5%(重量比)水希釈し、均一に混合する。気泡が混入しないよ低速攪拌機又は練棒等で静かに攪拌する。
※通常の高速ハンドミキサーは、使用できません。
- ③ 標準目砂骨ローラーにセブンスSSをたっぷり含ませ、気泡が混入しないように、配り塗り、仕上げ塗りし、均一に仕上げる。(予め砂骨模様の方向を打ち合わせて下さい。)
一度に腕を伸ばし、塗装すると造膜不足になり、気泡が入り易くなります。
- ④ セブンスSS 1回塗り面の乾燥硬化(通常3時間以上)後、透明になってから、2回目のセブンスSSを中毛ウールローラーを用いて、1回目同様に2回目を仕上げる。

3) 上塗り

- ① 中塗りセブンスSSの乾燥硬化を確認後、上塗り工程を行う。
- ② 水性セブンスストップは、基剤/硬化剤を10/1(重量比)とし、水道水で0～10%希釈し、主剤、硬化剤を必ず全量混入し、ハンドミキサー等を使用して均一に混合する。上塗材の半艶は、艶消材が分離状態になっている場合もありますので、缶の底部まで充分混合するよう特に注意して下さい。
- ②-2 水性セブンスストップFu-Iは1液型です。水道水0～10%希釈し十分に攪拌して下さい。
上記の理由から、石油缶より少量の使用は行わないで下さい。少量使用の場合は、水性セブンスストップ3.3kgセット、水性セブンスストップFu-Iは4Kgをご利用ください。
- ③ 中毛ウールローラーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう均一に塗り付ける。
なお、中塗りも含めて、透明仕上げのため、塗り残し、塗りむらのないよう十分注意が必要です。
- ④ 水性セブンスストップ 1回塗り面の乾燥後(通常3時間以上)、2回目の水性セブンスストップを中毛ウールローラーを用いて、1回目同様、2回目を仕上げる。
- ⑤ 上塗材の半艶は、艶消し材が沈降していることがありますので、ハンドミキサーで十分攪拌し、練棒等で缶のコーナー部の溜まりも良く混合して下さい。
- ⑥ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生する。
- ⑦ 中塗りのセブンスSSは、透明な塗膜なので、上塗りを塗るとき、塗り残しが発生しやすいので、2回塗りをして下さい。

施工全般における注意事項

「セブンス」を斜壁面や手摺天端面などに施工した場合、垂直面と比べ、日射角度からタイル表面温度の高低差が大きく、平場面のように降雨の滞留時間も長く、塵埃なども堆積し易く不具合進行が速いことから毎年1度の点検と、不具合部分の補修、更に、5～7年程度でのトップコート塗り増しをご提案いたします。

1. 気象条件

(1) 気温変動での注意

低温(5℃以下)の場合、樹脂の乾燥硬化に支障をきたす場合があるため施工を避けてください。

高温(気温35℃以上、躯体温度30℃以上)、及び湿度85%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。

(2) 降雨・降雪の恐れがあるときは、施工を避ける。

水性セブンスシーラー I 及び、中塗りセブンスSS、水性セブンスストップ施工後一度透明になっても、降雨が当たると吸水し塗膜の白濁、透明乾燥を繰り返す場合があります。冬場から春先に掛け、降雨の心配な場合には予め、軒養生などをして頂くことをお勧めします。

(3) 風速5m/sec以上のときは、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすので、十分風養生対策を行うか施工を避けてください。

(4) 塗付け途中、又は乾燥途中で急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにする。

2. 下地ごしらえ

(1) タイル仕上面又はコンクリート面に、不良箇所があれば、事前に十分に補修を行ってください。

(2) タイル目地を注入材やシーリング材等で補修してある場合は、目地の色が不均一となるので、予め管理者に了解を得てください。

3. 塗装の注意

(1) セブンスシーラーや、セブンスネオシーラーを塗装すると、目地が濡れ色で濃くなるので、予め、発注者に承認を受けるようにして下さい。

又、濡れ色で濃い部分と、目地モルタル色のむらに仕上がった場合は、目地の劣化が進行している場合が考えられるので、セブンスシーラーを再度塗装し、濡れ色を均一にして下さい。

(2) セブンスSS(主材)に清水を入れ攪拌する場合、高速回転の機械を使用すると気泡が混入して抜けませんので低速ハンドミキサー又は攪拌棒で気泡を混入させないよう静かに攪拌して下さい。

(3) タイル目地や、タイルにひび割れが発生している場合は、セブンスシーラー塗装後、セブンスSS(中塗り)をひび割れ部に、ハケ又は、ゴムべら等で増塗りを行い、乾燥後主材塗り工程を行う。

(4) 各工程の塗材塗装後すぐに塗面を養生シート等で密閉すると、養生シートと塗膜が接着し剥がれなくなることがあるので、養生シート等で密閉しないように注意する。

(逆養生が不要となる 手順を考える。)

(5) セブンスシーラー、セブンスネオシーラー、セブンスストップM#30は溶剤系ですので、臭気等を発生させるため近隣周囲への配慮を十分注意し、施工する。

居室内で使用する場合、塗料扱い時、塗装時には、通気・換気を十分に行ってください。

4. その他(保管等)

(1) 水性セブンスシーラー I、セブンスSS、水性セブンスストップは、5℃以上の場所で保管する。

(2) 3. 塗装の注意 及び SDSを確認してください。

(3) 居室等、内装で使う場合、塗料扱い時、塗装時には換気・通気に十分注意してください。

(4) 材料は、風雨・直射日光を避け、必ず冷暗所で保管してください。

使用材料一覧表

□ 荷 姿

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
水性セブンSシーラー I ナノカチオン樹脂	15Kgセット	石油缶	水性1液
	4Kgセット	石油缶	水性 1液
セブンSS アクリルシリコン樹脂中塗り	14Kg 4Kg	石油缶	水性 1液
水性セブンSトップ 2液アクリルシリコン樹脂 艶有・半艶	11Kgセット	石油缶	基剤/硬化剤 10:1 10kg / 1kg
	3.3Kgセット	石油缶	基剤/硬化剤 3kg/0.3kg
水性セブンSトップFu- I 1液フッ素樹脂 艶有・半艶	15kg	石油缶	水性 1液
	4kg	石油缶	水性 1液
セブンファンデクリヤー I	1kg	石油缶	滲み止めプライマー
セブンクリーナー	4L	ポリ缶	洗浄剤



株式会社 セブンケミカル

東京都新宿区西新宿7-8-13 栗原ビル

TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619

e-mail kimura@seven-chemical.co.jp

e-mail kitajima@seven-chemical.co.jp